

# 平成30年春第6回盛岡信用金庫「桜の札所・絵画コンクール」 最終審査の総評について

平成30年7月11日（水）当金庫本町支店会議室にて、特別審査員に藁谷 収 様（岩手大学教育学部美術教育科 教授）をお招きし、当金庫から理事長 浅沼 晃、常務理事 藤澤 透、常務理事 永井 俊洋の3名を交え、最終審査により16点の受賞作品を決定いたしました。

つきましては、藁谷教授より頂戴した総評を以下のとおりご紹介申し上げます。



岩手大学教育学部教授

**藁谷 収**

今回、絵画コンクールの最終審査にあたり、一次・二次審査により選出された50点の中から16点の受賞作品を選ばせていただきました。

審査員は私を含め4名で行い、各賞を慎重に審査いたしました。絵画作品の選考という観点からは、正しい絵画ということとは存在せず、審査委員が作品から感じる、それぞれの表現を受けとめることが重要になります。

当然審査員の受けとめ方は皆さん異なり、複数で審査することは不可欠に思います。審査の流れの中で、審査員4名の推薦理由も活発に行われました。

桜の咲く時期に、慣れ親しんだ風景を表現することは子供たちにとって貴重な体験に違いなく、季節の変わる様子を記憶の中に留めていくことになります。

表現された桜は、それぞれ個性ある豊かなもので、驚かされるものばかりです。学年を超えて、画面を構成する力強い確かな表現が伝わってきました。

受賞作品の中から、印象に残った作品の紹介を致します。

❖ 盛岡信用金庫理事長賞  
遠景、中景、近景の構図が見事に表現され、6年生が求める遠近法が見て取れます。



❖ 盛岡市長賞  
画面をはみ出すように一杯の桜が埋め尽くされ、よく観察した木の面白さが伝わってきます。



❖ JR東日本 盛岡駅長賞  
石垣を這いずる生き物のような桜は、物語の一場面のように、発想の豊かさに驚かされます。



❖ 3学年優秀賞  
間違いなくその場において桜の美しさを感じ、奥行きのある構成でダイナミックな表現に描き上げました。



❖ 岩手日報社賞  
画面上にふんわりとした塊に切り取った桜。石垣の背景にある、明るい黄色の塊も表現された情景をより豊かなものにしています。



最後に、一次・二次審査を担当された、佐藤 嘉彦 先生と柳村 栄 先生に改めて敬意を表します。

## ○特別審査員 藁谷 収 様

岩手大学教育学部美術教育科 教授  
（専門：都市計画・建築計画）  
岩手大学教育学部附属幼稚園 園長  
岩手県立美術館 館長  
彫刻家、国画会会員

## 略歴

昭和28年盛岡市出身  
昭和52年岩手大学教育学部特別教科教員養成課程（美術）卒  
昭和54年～岩手大学教育学部美術教育科 助手  
平成 8年～岩手大学教育学部美術教育科 教授  
平成28年～岩手県立美術館 館長

最終審査 平成30年7月11日（水）於：盛岡信用金庫本町支店会議室

